



DR映像を分析・共有

ヒヤリハット事例洗い出し

【愛知】アトラスカーゴサービス（本多満社長、名古屋市南区）は、毎月の安全ミーティングの中で、各営業所や物流センター間のヒヤリ・ハット事例を水平展開している。

ミーティングは20年以上前から行われており、司会はドライバーを含む従業員の持ち回りとヒヤリ・ハット事例をグループごとにKYT活動で分析して危険性を洗い出す

アトラスカーゴサービス

することで、自分たちが取り組むという姿勢を確立。管理者不在でも参加メンバーが自主的に協議できるほど、参加意識が高いのが特長だ。

ヒヤリ・ハット事例は、車両のドライブレコーダー（DR）の映像からピックアップした事例を、数人のグループに分かれてKYT（危険予知訓練）活動をしながらかつ分析。あらゆる可能性を書き出しグループごとに発表、危険要因を洗い出して当該

事例に対する注意点を全員で共有している。

また、4月には前年度の総括を行い、創意工夫や作業提案を表彰して、やる気を持続させるとともに、次回までの新たな目標を発表。特に、省エネ走行では、県下の大会で何度も優秀な成績を修めているが、その上で全車に定めた厳しい燃費目標を達成することに挑戦している。

岡島信雄部長は「事故やミスは少なくなっているが、更に無くしていくことが目標。マナーアップは当然だが、ルールの基本を守れば事故は防げる。プロとしての運転を指導する」と話している。（梅本 誠治）